

「男女平等推進センター次期活用計画に関する住民説明会」

【議事要旨】

日 時 : 【1回目】令和5年7月28日(金) 19時～(19時45分終了)
【2回目】 " 29日(土) 10時～(11時00分終了)

会 場 : 男女平等推進センター 1階会議室

参 加 者 : 32名(内訳:①15名、②17名)

説明内容 :	1 開会あいさつ	施設整備課長
	2 背景・概要など	施設整備課担当者
	3 各施設の紹介	各所管課担当者
	4 スケジュール	施設整備課担当者
	5 質疑応答	

5 質疑応答 (■住民 ○行政)

【1回目:令和5年7月28日 19:00～】

■ 多目的ホールに係るスケジュールについて

現在、3階の多目的ホールを使用しているが、いつから使用できるようになるのか。使えなくなる期間が生じるのか。

- 既存の多目的ホールは大森北四丁目複合施設に移転し、大森北四丁目複合施設は、令和6年度中に竣工予定であり、多目的ホールの機能についても、竣工後に供用開始予定である。なお、新しい施設が竣工後に移転するため、休止期間は設けない予定である。

■ 多目的ホールについて

現在もなかなか予約ができない状態である。移転後も解消されない恐れがある。利用者としては、改修後における「統計調査室の空き期間」を有効活用したいが、貸館としなかった背景を説明いただきたい。未利用期間が長期に渡った場合、利用できるようにしていただきたい。

- 各諸室の利用ニーズが高いことは承知している。現在、公共施設の多くが更新時期を迎えているため、それらの施設廻しにおいて、空きスペースの需要が非常に多く、有効的に活用していく判断となった。貸館機能は、大森北四丁目複合施設に「レクリエーションホール」として同等機能・規模を整備する予定である。加えて、同施設には、地下にある文化ホール(400名程度収容可能)をはじめ、集会室や多目的室なども整備する。現在の多目的ホールでの利用用途が分からないので代替できる諸室としては言い切れ

ないが、それらをご利用いただきたい。

■ 改修後における更生保護サポートセンターの開所時間について

現在と開館時間は変わるのか。「北蒲ひろば」と同じでよいか。

- 現在は「北蒲ひろば」に入所しており月曜から金曜の午前 10 時から午後 4 時まで開所している。また、会議室や面談室は夜間や土曜日も含めて利用いただいている状況である。移転後については、移転後における施設全体の管理・運営上のこともあるため、今後検討していきたい。

■ 総合案内機能の要望について

現在、施設を利用しており、ここの施設の強さは総合案内の良さであることから、改修後の施設についても 1 階に総合案内機能を設けていただきたい。

- 日頃からご利用いただいたほか、受付機能もご評価いただきありがとうございます。これまでの活動等も参考にしながら、地域に根差した建物になるよう検討させていただきたい。

■ 花壇の手入れについて

これまで花壇の手入れの活動をさせていただいた。今回の移転等を踏まえて、来年の 3 月で活動は打ち切るため、工事等のタイミングに合わせて適切に切っていただければ。

- 改修工事のタイミングを踏まえ、適切に措置させていただく予定である。これまで、美しいお花も手入れいただき、ご協力いただきありがとうございました。

■ JOBOTA と SAPOTA の場所機能について

現在、「SAPOTA」の執務室・相談室の隣室には、JOBOTA 分室として「居場所」が整備されている。今後「フラットおおた」と一緒になるに当たって、「フラットおおた」の居場所機能は明記されているが、「JOBOTA の居場所機能」はなくなるのか。

同じ「居場所」ではあるが、オープンさや秘匿性などの度合い、利用者の違いなどもあるため、連携は必要だと思われる。

- 現在、重層的支援体制の強化という中で、「JOBOTA」、「SAPOTA」、「フラットおおた」をどのように整備していくか、関係部局において、あり方を検討しているところである。
基本的に、3つの機能を 1 フロアでおさめているが、連携しながら使っていくということを考えており、設計の中で引き続き検討させていただく。

【 2回目：令和5年7月29日 10：00～】

■ シニアに係る活動団体への支援について

シニアの社会貢献、引きこもり防止・活性化の活動をしている。3階の空きスペースにおける活用について、区としてはどのように考えているか。

- 引きこもり防止活動については、こちらに入る施設と連携を図ることはできることもあると考えている。一方で、団体の活動や講演会など、貸館機能という意味では、大森北四丁目複合施設内に多目的ホールや集会室を整備するため、ご利用を検討いただければと考えている。

■ SAPOTAの対象について

SAPOTAの引きこもりは高齢者もサポートするのか。

- 年齢の限定はないため、高齢者であっても対象である。地域包括支援センターやシニアステーションと連携しながら、高齢者が引きこもりを脱せられるような支援をしている。

■ 引きこもり支援対策について

各施設の連携イメージを教えてください。

- 各施設の担当者が、必要に応じてチームでの情報共有を図りながら対象者を支援する。

■ 3階の統計調査室の空き期間の予定や活用見込みについて

- 統計調査等、国勢調査は5年に一度で、今回は令和2年に実施している。用品の納品は前年8月から行われる形となる。

審査期間は半年程度であるが、終了後、国勢調査において使用した用品で再利用が可能な物品については、需要調査を踏まえてNPO団体等に配布する動きとなる。そのため、国勢調査1つをとっても2年程度は諸室を使う見込みである。

また、法人向けの「経済センサス活動調査」についてもその次に行くなど、5年に1回しか使わないということではない。空き期間についても施設のタネ地として活用できないか模索をしているところである。

- 新たな行政需要に備えたスペースについては、600施設ある中で半分以上の施設で、老朽化が進んでおり、建替え等を進めているが、都内でもあるため、十分な土地がなく、居ながら工事でもスピード感をもって実施出来ていないような状況である。

当面は、施設の「建替え用地」や「事務スペース」として使わせていただく予定。駅にも近く利便性があるため、新たな行政需要が発生するとは考えているため、そのあたりも含めてご理解いただければ。

■ 現在の活動の継続について

シニアステーションなどの活動の利用率が上がっていない。それは行きにくいからである。そこで、「シニアのおしゃべりサロン」という事業を5年程度やっている。その火を消したくないので真剣に考えていただきたい。

また、現在、この施設で行っている活動を継続していきたいので、調査室の一部を月

に1回借りることはできないか。

- 所管である高齢福祉課などともしっかりと連携して、そのような声があったことを踏まえ、皆さんと協力して施策を前に進めていきたい。また、大森北四丁目複合施設には、「シニアステーション」も入所するほか、「集会室」等も整備されるため、その活用も含めて検討出来ればと考えている。

■ 地域との連携について

地域にとって、新しくなる建物が地域に受け入れられていく努力をどのようにするのかを伺いたい。

- 男女平等推進センターは複合施設に移転をするが、子育て層の施設や高齢者施設など、多世代が利用する施設として複合化されていくため、これまでの利用者層の方以外にも見ていただける機会が増え、これまで以上に認知度が増えると考えている。

■ （引き続き）

JOBOTA や SAPOTA、フラットおおたは、地域との連携をどのように考えているのか。

- 「フラットおおた」では、例えば、入新井の盆踊り大会や池上まつりに参加するほか、青年対など「地域活動をされている方とのつながりを持つ」ことによって地域に出ていくきっかけづくりを目指している。今後も地域の方にもご協力をいただき、困っているから来るという施設だけではなく、地域の方も気軽に利用し、顔を出していただける施設を目指して、地域に根差していきたい。
- 「JOBOTA」、「SAPOTA」では、「フラットおおた」より、もっと手前のやっとうトリーチなどを経てつながりを持つことが出来て、やっとう居場所に出てきてくださった方もいる。その中で引きこもりの方も、少しずつ地域の方とつながりを持つことの重要性を理解している。少しずつ、地域の方の力も活用して、地域にデビュー・再デビューできるように考えているため、お力添えいただければ。

■ （引き続き）

新しく施設が出来た際に、地域の中でういてしまわないようにした方がよい。特に引きこもりの方などにとっては、出てくること自体、すごくハードルが高いため、施設が「開かれている雰囲気」がなければ入りにくい。行政には努力を重ねていただきたい。

■ 気軽に来られるスペースの整備について

現在のエセナ大田には、2階にフリースペースがあり、子どもたちも宿題などを行っており、地域に密着している。新しい施設には、「気軽に来られるスペース」、「展示施設」、「休憩スペース」などをつくる予定はあるのか。それとも「ひっそりとした建物」として、必要な方だけがそっと来訪する施設にするのか。

- 「展示スペース」については現在のところは予定していない。頑張って勇気を振り絞り相談スペースまでお越しいただく方もいる。そのような中、不特定多数の方が利用している空間を通ることがハードルとなる方もいる。引きこもり支援は役所の力だけではとてもできないため、地域の方や若者の会などとも連携させていただきたい。

「開かれた施設」と「ひっそりとした施設」という面に関しては、非常にナイーブな部分ではあるので、本日の意見も踏まえて、どのような建物のづくりや居場所機能のあり

方がよいか、今後検討をしていく。

■（引き続き）

理想的には、このような施設があるということ、利用者の口コミで、「自分はそれで良くなった」、「あの施設良いよ」、「それだったらあの施設に行けば良いよ」というのが、どんどん広がるのが理想だと思う。逆にひっそりとしすぎても利用者が減ってしまう可能性もあるため、これだけしっかりと相談機能を集約して連携をとるとのことなので新しい対応も検討いただければ。

■ 現在のエセナ大田における諸室の利用継続について

大森北四丁目複合施設においても同じように利用できるのか、利用料金はどのようになるか。

- 現在、移転に関する利用者向けの説明会を準備しており、質問事項についてはその際に回答をさせていただく。張り紙等を通じて周知をさせていただく予定。

■ 老人の引きこもり対策について

例えば、SAPOTA 経由で会議室を押さえ、関連している活動団体が使う方策は可能か。

- SAPOTA では居場所事業を実施しており年齢制限もなく、引きこもりとなってしまう方に対して、気ままに来ていただける場所を設けているので、今後、1か月に1回SAPOTA が会議室を抑えて、皆様が現在実施されている活動の場を提供するというのは、一考する必要がある。たまたま大森には、このような場はあるが、別の地域ではなかったりするため、JOBOTA・SAPOTA などの活動の中で、一緒にやれる活動があればぜひ協力をお願いしたいが、現段階で、ご提案の方策をやれます。というのは言えない。

以上